

五家荘と西南の役

西南の役の戦いが五家荘でも繰り広げられたと思う人は誰もいないのではないのでしょうか。明治10年、西郷隆盛が率いる薩摩軍と政府軍が戦った西南の役は、熊本の田原坂の戦いがとても有名です。この戦いは、熊本、宮崎、鹿児島をまたがるなど広い範囲で激しい戦いが繰り広げられました。田原坂で敗れた西郷軍は次々と敗れ、人吉に逃げました。人吉の織月城の近くにある永国寺（えいこくじ）に本陣をおいて、西郷軍の立て直しを図っていました。政府軍つまり官軍は八代に本陣をおいて、人吉にいる西郷軍を全滅させるための攻撃をする準備を整えていたのです。

そのころ田原坂の戦いで形勢不利と感じた薩摩軍の一部のAグループは、五木村の平瀬地区や頭地地区に逃げ、待ち構えて追ってくる官軍と戦う体制を整えていました。そこへ河俣地区を通過して五木に入ってきた官軍と大激戦を繰り広げたのです。勢いづく官軍に押されて、ここでも薩摩軍はたまたらず人吉方面に逃げだしたのです。

一方、薩摩軍の一部であるBグループは別ルートで泉村の柿迫・栗木地区を通り子別峠（こべつとう）を越えて五家荘へと向かい保口、板木を経て竹の川、宮園で待ち受けた官軍との戦いになりましたが。同じようにどうしても勝てそうにないと考えたその薩摩軍の一部は、久連子地区を通過して石楠峠を越え、球磨郡の水上市村を通過して鹿児島に逃げようとしていました。ところが官軍は、たぶん薩摩軍の一部が久連子地区を通過して石楠峠に来るだろうと予想をして、ポイントとなる場所にトリデを作って、薩摩軍を迎え討ったのです。その砦の跡が今でも久連子地区に残っています。

また、五家荘で一番戦いが激しかったのは、仁田尾地区でした。笹越峠（ささごえとうげ）にいる薩摩軍のCグループを岩奥地区から官軍が攻め、笹越峠を攻めの峠とも言われるほど激しい戦いとなりました。五家荘の西の岩地区の「勝負谷」「攻（せめ）」は、薩摩軍が陣取ったところで、ここでも戦いがあり、それが地名に

なつたと言われています。薩摩軍と官軍の戦いでは、管筒砲や弓矢を使ったとも言われており攻地区では、最近まで矢尻が発掘されていたそうです。